

第5回行政評価検証専門部会会議録

日 時	平成26年11月27日（木）午後1時～4時00分
場 所	生涯学習センター第1学習室
出席者	【委員】佐藤徹副委員長（部会長）、岩淵公二委員、高樋さち子委員、和田明子委員__（西出順郎委員は欠席） 【事務局】 【担当部等】（資料説明のみ）
傍聴者	なし

施策①～③、重要課題について、部会としての評価を事務局が外部評価シートに整理したものを最終確認した。

1 部会長あいさつ

第5回行政評価検証専門部会となるが、今年度の最終回かつ委員任期における最後の部会でもある。

本日は、個別の評価内容の最終確認とこれまで政策評価を行ってきた全体の振り返りについて、前半後半で1時間ずつ分けて議論したいと思うのでよろしく願います。

2 重要課題について

（事務局）重要課題の評価について、当方の説明が不足していた部分があった。この「災害時における情報伝達手段について」は、市長のマニフェストに打ち出されている内容であったということ当初にご確認いただいてから議論を始めなければならなかったということである。選挙の公約で示し、臨時災害FMに取り組むということで当選した経緯もあり、コミュニティFM導入の是非についてはその点を踏まえていただきたかったところである。

もう一つ評価の視点として説明が不足していた事項があり、それはこのコミュニティFMの導入に関しては、プロポーザル方式を採用しているということである。ぜひ評価していただきたかった点はこのプロポーザルの手法であり、それについてご意見をいただきたいということが欠落していた。本日は最終回ではあるが、ぜひプロポーザルについてもご議論いただきたいということである。

3 協議

【外部評価シートについて】

(部会長) 事前に事務局から委員の皆さんに取りまとめた内容を確認してほしいというメールが届いたが、その内容に変更は無いが、外部評価シートのフォーマットについて一部変更されている。まずはその点についてご確認いただきたい。変更点は、シートに政策評価委員会の評価だけでなく担当部課の内部評価シートの記載を追加したものの。公表を前提としているので、内部評価と外部評価を対照した方がより市民にとってわかりやすいのではないかという配慮で整理したということである。

(1) 地域の実情に応じた公共交通体系の構築

(部会長) 評価項目「施策の成果が明確に定義されているか」については、「B 概ね適切/一部見直しが必要」、他の評価項目も「概ね適切」となっている。各項目を1つずつ見るよりは、全体を見て気が付いた点を挙げていただいた方がよろしいかもしれないが如何か。或いは追加で指摘すべき事項があったら仰っていただきたい。

(委員) 基本的なことで申し訳ないが、私たちが指摘した事項を受けて、市の方はブラッシュアップするのか。

(部会長) フィードバックということか。担当部であるまちづくり部にこの評価を投げかけるということか。

(事務局) もちろんご意見を受けてブラッシュアップする。ただし、見直しの過程で実際に見直す場合と何らかの理由で見直せない場合もあるが、一旦は内容をしっかりと検討する。

(委員) 見直した結果はインターネット等で公表するのか。今年度第1回の委員会では見直し内容の説明を受けたが、次年度もそうだと委員の任期が今年度で一旦満了となるので、再任しない委員はその内容を見られない可能性がある。

(事務局) 基本的には内部で検討したものはインターネットで公表し、次年度の評価において見直したもので内部評価をする。それも外部に公表することになる。

(部会長) 第1回の政策評価委員会で指摘事項の見直し状況の説明があったが、その内容も公表しているのか。

(事務局) 公表している。

(部会長) 来年度の政策評価委員会がどうなるかわからないが、第1回の委員会で資料として公表され、その後インターネットでも一般の方々に公表するという形か。

(事務局) そのとおり。

(部会長) 今回委員の任期が満了することもあり、そのことでどうなるのか心配しての意見だと思う。市の検討結果を整理したものを提示するという事となる。

(事務局) そのとおり。

(部会長) 今回で最終回となるが、公表はいつごろになるのか。

(事務局) 最終報告については、1月になる。政策評価委員会の報告を受けてその後公表となる。

(部会長) この第5回政策評価委員会の公表はいつになるのか。

(事務局) 会議録を委員の皆様を確認してもらった後公表となる。

(部会長) 会議録だけ公表し、外部評価シートは出さないのか。

(事務局) 外部評価シートについては、最終の報告を受けた段階で公開するが、途中の段階では公表しない。

(部会長) 会議録だけではわかりにくいのではないかと思う。

(事務局) 途中段階の評価シートは公表していない。評価の最終報告を受け、その後内部で検討し改善が必要な部分は改善する。市長、教育長、副市長、全部長で構成される政策推進会議で最終的に見直した内容を確認し公表する。

(部会長) それではこの施策の評価シートの内容はこれでよろしいか。よろしければ次の施策に移る。

(2) 地域医療の充実

(部会長) 評価項目「施策の成果が明確に定義されているか」については、「A 適切」であり、「評価指標の設定は適切か」も「A」、「成果達成状況の要因考察や課題の把握は適切か」は「B 概ね適切/一部見直しが必要」、「市の今後の方針は適切か」は「B 概ね適切/一部見直しが必要」となっている。事務事業評価も3つあり、それぞれ「A」「B」「B」という評価結果になっている。ご異議なければ次へ進むがよろしいか。

(3) 環境監視体制の強化と公害の防止

(部会長) 評価項目「施策の成果が明確に定義されているか」については、「B 概ね適切」であり、「評価指標の設定は適切か」も「B 概ね適切」、「成果達成状況の要因考察や課題の把握は適切か」も「B 概ね適切/一部見直しが必要」、「市の今後の方針は適切か」も「B 概ね適切/一部見直しが必要」という結果になっている。事務事業評価は3つあり、それらも全て「B 概ね適切」という評価結果になっている。評価項目ごとに様々な指摘事項があり、「概ね適切」という評価に気を緩めることなくしっかりと見直ししていただきたい。違和感のあるところはないか。これでよろしいか。ご意見が無

ければこれで最終の評価とさせていただきます。

(4) 災害における情報伝達手段について

【追加資料について】

(部会長) 追加資料があるとのことなので、事務局から説明願う。

(委員) 追加説明を受け評価内容を再検討するということか。

(部会長) その点も含めて検討する。まずは内容について説明を受け、その後で議論したい。それでは追加資料の説明をお願いします。

【追加資料の説明】(資料どおりの説明略)

(担当係長) コミュニティFMについては、公設民営ということで進めてきたので運営事業者を決めなければならない。法律により自治体は運営主体にはなれないため、相手先を決めなければならないということで公募により進めてきた。公募要領には公募に際しての諸条件を示し、これによって運営事業者を募集した。実際の申込者が3社。当日参加が2社であり、その2社について選定委員会を設置し、委員会の中で審査要領と審査基準を設け、採点方式で第1候補者、第2候補者の順位を付けた。結果的に第1候補者と仮協定を結んでいる。現時点の状況はそこまでとなっている。今後話が進むとなれば仮協定を結んだ第1候補者と詳細を詰め、本協定を結ぶというような流れになる。

【質疑応答】

(部会長) 追加説明に関する質疑の前に、本部会において前回までの議論を踏まえた評価内容をシートにまとめているので、まずはこれについて最終確認したい。「課題解決の検討内容」の「手法の選択肢」は「C 一層の努力が必要/かなりの見直しが必要」、「市民の視点」についても「C」、見込まれる経費についても「C」である。その他の項目についても全て「C」となっている。最後のページには「今後の考え方に関する総括意見」ということで、4つ意見として指摘されている。総じて熟度が低いのではないかという観点から意見がそれぞれの委員から出されている。外部評価シートについては概ね以上となるが、気付いた点、追加・修正点があればよろしく願う。

(委員) 会議の冒頭で、市長のマニフェストであるということが当初の説明で欠落していたとの説明があった。当然、市長はマニフェストに掲げ当選しており、一定の市民のコンセンサスを得ているであろうという前提だと思うが、逆に言うと市議会で否決されているわけなので両方市民の声、民意である。市長と市議会の意見が異なるところに政策評価委員会が判断を出すということがはたしてどうなのか、と個人的な感想としてはあるが、ただし、今回そのような中で評価を加えたとしても、逆に言うと市長と市議会の意見が違う

ものを今後さらに推進しようとしたときに、これだけでは市民への説明が足りないということの裏返しではないか、と個人的には考えている。私とすれば、市長のマニフェストだったということと、選定にあたってプロポーザルという手法を採用したということ踏まえても、委員会の意見として出されたことを市民に説明するということを補わなければ、市民の理解を得られないのではないかと思うので、基本的に外部評価シートの内容はこのままで良いと思う。プロポーザルの方法がどうだったかという点は非常に難しいと思う。採点基準や様々検討されたうえで各委員の方が判断されたわけで、これは私の全くの感想なのだが、プロポーザルの方式というのものもある種、良いようで悪いようで、と言うと語弊はあるが実際何社応募があったのか。

(担当係長) 申込みが3社で、実際の参加は2社であった。

(委員) それは皆市内の事業者か。

(担当係長) そのとおり。

(委員) 地方都市において防災ラジオの機能を備えたコミュニティFMをやろうとすると、当然、体力や財力など様々なものが限られているときに、そもそもプロポーザルとは言いながら、他の事業者との比較はわからないが、なかなか地域のNPOが手を挙げて、正直言うと難しい話なのかな、ということもある。本当に感想なので事実はわからないが、アリバイ作りに使われてしまうというケースがあるのかな、という不安はある。それで、今回、事務局からの事前メールでプロポーザルの話があったときに、その時点で一度質問しようと思ったことがあり、それは一旦、運営事業者として選定された北上ケーブルテレビ株式会社に関しては、出資法人等協働評価専門部会で1度評価を受けているのでその評価結果を知りたかったということ。例えば、別の部会で北上ケーブルテレビ株式会社の経営について、専門家のご意見があったとすると、そのFMの事業者として選定され、果たして経営的に問題は無いのかということが意見として出てくるだろうなと思う。その点についても説明があった方が良かったという感想がある。ゆえに、そのような出資法人等協働評価専門部会での評価内容を十分承知しないまま、北上ケーブルテレビ株式会社の救済という意味合いで捉えたのではないかと発言したと思うが、運営事業者として経営上問題が無いということであれば、別の部会で議論した結果としてこのような評価になっています、ということ踏まえた説明があるともっとわかりやすかったかなという感想である。

(部会長) ありがとうございます。プロポーザル方式の話は後で議論することとして、外部評価シートの内容については如何か。

(事務局) 1つ発言してもよろしいか。

(部会長) どうぞ。

(事務局) 北上ケーブルテレビ株式会社については、現在、2回目の評価を受けており、再評価の結果が示される場所である。

(部会長) 2度評価を受けることに何か意味はあるのか。

(事務局) 対象法人の数が少ないので2巡目ということである。

(部会長) それではこの外部評価シートに関して、内容がこれで良ければまとめたいと思うがよろしいか。内容については、今後の考え方に関する総括意見のところに集約されている。読み上げると、「防災ラジオを念頭に置いた検討方法に結論ありきの疑念を禁じ得ない。」「長期に渡る事業であるため、しっかりとした調査を行うべき。」「災害情報を提供するという方針は重要でかつ必要である。しかし、市民が災害情報に対して必要としている機器、ソフト面の要望を収集してから市として対策を検討するべき。」「コミュニティFMの成功事例があると、その説得力が増すように思われる。」ということなので、現状で災害時の情報伝達手段としてコミュニティFMが適切であるとはなっていない。そこにたどり着くまでの前段階であるということ。

(委員) 防災ラジオありき、と私のコメントにもあると思うが、市長のマニフェストなので当然防災ラジオありきなのだ、ということにはなるのであろうが、だとすればやはり外部評価の遡上に載せるときにもう少し論点を絞って出していただかないとやはり不十分さを感じてしまう。私はあくまでこの評価シートに記載されている内容で良いと思う。

(委員) 長期的に渡る事業であり、せっかく導入しても市民の方が使えないとなればもっとマイナスになるので、この総括意見の内容で良いと思う。

(部会長) 他の委員の方も同様の意見か。

(委員) はい。

(部会長) それでは修正、追加意見は無し、ということで部会としてはこのシートの記述を最終の評価とする。

(4) 部会の全体総括について

(部会長) それでは今年度の部会としての総括に移る。皆さんからの忌憚りの無いご意見等があればお願いしたい。今年度若しくはこれまで2期4年間の委員会を振り返っていただいて、今後の糧になる話を頂戴できたらと思う。

(委員) 政策評価委員会にかけられる案件について、どのような部分の評価するか、評価してほしいのか、我々もそうだが、事前の整理をもう少しできれば良いのかなと思う。逆に関心も持って聴きたいのだが、この委員会で評価をさせていただいて、その結果をどのように活かしているのか、どの点を活かしているのかお聴きしたい。政策評価委員会で評価した結果、或いはそこで議論したプロセスも含めて市の皆さんに役立てられていれば、我々も非常に嬉しい

指摘をしつつも「良かったな」という感じになるのだが。評価しただけで終わるとむなしい気持ちになる。そういった意味では評価結果をどう活かすか、具体的に事業の中身がどのように変わるかということもあるのだが、それだけではなく市の職員、組織の中でどう活かされているのか関心がある。逆に言えばそのような使い方の出来る案件を評価したい。評価したいという言い方も変なのだが、その方がすごく活きるのかなと感じる。

(部会長) 後段の部分に関して、どのような点を活かしているのか、現状はどうなのか、ざっくばらんにお聴きした方がよろしいか。

(委員) 恐らく担当課と評価を主管する課とで意見は違うと思う。皆さんの感想はどうなのか。

(事務局) 基本的には出されたご意見に関して、必要な事項は改善し施策の達成度を測っている。達成度を測定し遅れている施策は何なのかを把握したうえで進めている。ただし、担当課ではまた別の見方があるかとは思う。

(事務局) 評価指標の設定について、様々ご意見をいただいているので助かっている。委員会の指摘に対して十分応えているかどうかはわからないが、どのように指標を設定すればよいのか意見をいただき改善を図っている。

(事務局) それによって適切な評価ができると思っている。現状の施策の進捗度を測り、足りない部分は財源を投入していくというような形である。

(部会長) 評価結果を受けて、そこから指摘に係る改善状況を取りまとめるまでの過程において、どのように努力されているのか。或いは、なかなか難しいという点があれば伺いたい。関係課に文書で期限までに回答を求めるだけなのか、それとも対話型で議論しているのか、政策企画課からもこんな指標が良いのではないかということがあるのか、そのような場を設けて前向きに議論しているのか、気になっている。

(事務局) まずは担当部に評価結果を示したうえで検討を促し、そこで得た回答内容によっては、担当者が直接担当部とやり取りをし指摘する。そこである程度できた内容を三役、全部長で構成する政策推進会議において全て確認し、方針を定めている。

(部会長) その会議でチェックが入るのか。

(事務局) そのとおり。その会議で指摘があればもう一度担当部課へ返して検討させる。

(部会長) それをまとめたのが資料として委員会に出されたということか。

(事務局) そのとおり。

(部会長) 担当課に回答を求める際には期限を設けるはず。期限までに出てくるのか。

(事務局) 出てこない。

- (部会長) 回答までどれくらい期間を設けて検討させているのか。
- (事務局) 通常の施策評価については、1カ月程度は設けている。指摘事項に係る検討については、1～2週間くらいになる。
- (部会長) 今年度に関しては評価結果がもうすぐ出るが、年度内に見直しをかけるのか。次年度になると人事異動もある。
- (事務局) 年度内には見直す。
- (部会長) そのような見直しの流れが可視化されていると良い。政策企画課としては、他の部になかなか強く言えないところもあるわけですね。
- (事務局) 仰るとおりである。嫌われ役に徹している。
- (部会長) そうですね。行政改革を担当する部署は嫌われ役の部署でもある。
- (委員) 政策評価委員会での評価結果に対する改善状況等をまとめたものを、何かしら具体的に新しい事業を立ち上げる時や予算編成の時などに使うことはあるのか。この評価シートそのものを使うことは無いと思うが。
- (事務局) やはり計画の進捗度を測る際に使っている。出された意見を基に指標を設定し、施策の進捗度を測ることにより、足りない部分があれば力を入れていくということになる。それを測るのが評価指標であるため、ご意見をいただいて指標が明確になっていけばしっかりとどの程度施策が進んでいるのかを適切に判断できる。そして、不足している部分に出来るだけ財源を投入してピンポイントに取り組んでいくという点に活かしている。
- (部会長) その点は私からすると評価担当部門の期待というか願望であって、事実と違うのではないかと思う。というのは、他の部署が行っていることを横で見ているわけでもなく、「こうあるべきだ」という理想と現実とに多大なギャップがあるのではないかと。もちろんしっかり取り組んでいる部署もあるかもしれないが、それは一部であり、全体の2割くらいではないかと思うところもある。
- (事務局) 施策の進捗具合については政策推進会議の場で確認し、次年度の実施計画を立てる際にどこに力を入れていくかというところを判断しているので、ある程度部長は認識していると思う。
- (部会長) それも理想なのではないかと思ってしまう。
- (事務局) そうかもしれないが、少しでも近づけるようにしていきたい。
- (部会長) この政策評価委員会は、出資法人協働評価専門部会もあるが、年5回の開催である。1回あたりの会議時間も委員会・審議会の類としてはどちらかと言えば長時間の部類に入る。もちろん我々もかなり予習したうえで臨んでいるわけであり、往復の移動時間も含めて莫大な時間がかかっているので、ぜひ評価しただけで終わらず前に進めてほしい。他の委員の方の意見はどうか。

(委員) 専門なのでだいぶ厳しく指摘させていただいた。今、市民の目というものが非常に厳しくなっているので、情報公開を含めてしっかりと説明できないものはまずい、という自覚を持っていただければと思う。この場で説得できなければ市民の方はもっと説得できないので、そのような手続きについて、各部署の方々が冷や汗をかきながらこの場で説明したと思うが、説明責任ということが以前より厳しく言われており、その点について忙しいとは思いますが目を向けていただければと思う。そうすればコミュニティFMについても、もう少し違った方向が出てきたのではないかと思う。

(委員) 重要課題をどのように評価するのか、重要課題とされるものをどのように評価すべきか、最初の2年間の時から課題だったと思う。今期も少し曖昧なままでここまで来てしまったので、重要課題が評価になじむのかその点も含めて検討したほうがよいと思う。

(部会長) 最後は私から感想を述べさせていただきたい。4年間委員を務めさせていただき、最初の頃は案件ももっと多かったが、今年は重要課題を含めて4案件ということで、当初から数えると20案件くらいは各担当部長と議論させていただきながらこれまで取り組んできた。様々指摘してきたが、北上市は全国的に見ても、行政評価に関して制度上はかなり進んでいると思う。第三者的な委員会では、ここまで1つの案件について、じっくり時間をかけて掘り下げていくという形式のものというのはそれほど多くはない。他自治体でも外部評価の委員を務めているが、同じ案件を何度も繰り返し回を重ねて議論するのはここだけかなと思う。他では、例えば1案件につき70分と決められており、消化不良であったとしてもそこで終えてその場で外部評価シートを記載し集約する。そちらのほうが同じ時間をかけても対象となる施策数は多い。それが良いのか、北上市の様に議論するにつれて評価シートの成熟度が上がっていくという、そのような方法もありなのかなと思う。それから何よりも北上市の特徴は、部長が説明者になるということ。他自治体では施策の説明では次長、課長あたりが出席する。部長自ら説明するということは他ではない。それは北上市のやり方として大変素晴らしいことだと思う。部長が責任を持っているので、自分の言葉で話されるということは大変意義があることだと思う。そこで伺いたいことがあるのだが、この4年間で評価される側の担当部署の意識はどうなっているのか。何ら変化が無いのか、ポジティブに捉えるような動きがあるのか。というのは、先週、別の自治体の外部評価があり、そこでも北上市と同時期に外部評価に関わっているのだが、その担当課長が意識が随分変わってきたと仰っていた。当初は担当部署の意識は「当たってしまった」「なぜうちの部署が評価を受けなければならないのか」というのが大勢であったが、最近は「評価をしてほしい」「指標が

おかしいのでもっと指摘してほしい。ヒントがほしい」など進んで手を挙げる部署があるということを知った。これは私自身もやって良かった、関わって良かった、と思った次第である。大変辛辣な質問なのかもしれないが、北上市では何らかの組織風土上の変化は芽生えつつあるのかどうか。この4年間、種を蒔き芽が出つつあるのか何か教えていただけけたらと思う。

(事務局) 部長はしっかりと評価しなければならないという意識は出てきている。以前よりも評価シートをしっかりと見るようになってきている。以前だと担当者が作成したものをそのままにしていたかもしれないが、それを部課長が見て施策を作っていく芽が出てきているのかなと感じている。ただし、出来れば当たりたくないという意識はあるかもしれない。積極的に「うちの部を当ててくれ」という段階までには達していない。

(部会長) 全ての施策を毎年評価するわけではないので、何年かに1回しか当たらないわけだが、この4年間で北上市の総合計画に掲げている施策の半分も評価していないわけですね。

(事務局) そのとおり。83施策ある。

(部会長) 4年間行っても半分に満たない。ゆえに、それぐらいの頻度であれば我慢してもらおうと言うか、北上市は部長が説明されるということなので、内部で議論、予習するという部内での情報共有効果というか、なかなかそのようなコミュニケーションはあまり無かったかもしれないが、ひょっとしてそういう効果が生まれているのかなと推測する。

(事務局) もちろんそれはある。

(部会長) ですね。それはあると思う。

(事務局) 外部評価を取り入れることによって、他の部署の施策に対して意見を言う部長が増えた。これまでは政策推進会議において、部署の代表として自分の部署を守るという意識では無く、自分の部の施策であっても本当に施策として必要なのかどうか、という意識に変わってきており、そこが大きな成果かと思う。

(部会長) それはどうしてか。他の部署に関しては言いにくいはず。

(事務局) 評価結果を見て確かにそのとおりだなという意識若しくは委員会からの評価結果が後押しとして働き、見直しはこうあるべきだ、という意見が出るようになった。自分の部署の予算は確保したいのだが、どこかを削らなければ確保できない。その中で効率の悪い事業はどれかという議論になり、その点は意識が変わったと思う。

(部会長) そういう意味では部署間の競争ということか。限られた予算の中でそのような意識が働いていれば良いのだが。まだ半信半疑ではあるが、しかし、本当にそのようなものがあるとすれば素晴らしいことである。

- (委員) その会議の会議録は公表されているのか。
- (事務局) それは公表できない。
- (部会長) いつどこで何をするかくらいは出るかもしれないが、議論の中身までは出ないはず。
- (委員) 市役所内部だけで掲示するというのもないのか。
- (部会長) それもないはず。
- (事務局) どの部長がどの部を批判しているのかがわかってしまうため、そうなる
と余計に守りに入り喋らなくなる。
- (委員) この政策評価委員会で部長が出てきて説明するということは、政策企画課
の主導か。それとも市長の意向か。
- (事務局) 元々部長が出るものとの認識がある。他の審議会などでも大抵全部長が
出席する。例えば、基本構想等審議会という総合計画の進捗管理状況を確認
する場があるのだが、その場でも市長以下全部長が出席する。
- (部会長) 他の自治体ではそうではない。説明するのはせいぜい担当課長くらいで、
係長や課長補佐が説明するところもある。
- (事務局) できるだけ部長に出席してもらっている。
- (部会長) 北上市には政策統括監というのがあるが、効いているのか。
- (事務局) 効いている。特に予算編成時の事業選択において、部の中にある資源を
どう配分するのかそれを調整する役目を担ってもらっている。
- (部会長) 枠配分予算を部別に行ったとしても、単に部に配当されてきたものを前
年度実績により比例配分して、はみ出た部分を削るという形式的な調整が他
の自治体ではあるのだが。
- (事務局) 十分に配分できるほど財源が無いので、少ない予算をどう調整して新し
い事業を行うかという政策統括監の最終判断となる。
- (事務局) 総合計画には6本の柱があるのだが、その柱それぞれに政策統括監を配
置しており、その政策統括監が出来るだけ予算調整をする。それでもはみ出
ることはあるのだが、それについては政策推進会議の中で議論し、最終形を
模索していく。ある程度は政策統括監にそれぞれの部間調整をしてもらう。
- (委員) 市長がいらっしゃらないところで申し訳ないのだが、今の話を興味深く聴
いていたが、今の市長が4年前に就任したことの影響がどの程度あるのか、
それとも北上市は市長が誰であろうと伝統というかそういうものがあるの
か、どのように感じられているのか。
- (事務局) ファシリテイト能力が高いと思う。
- (委員) そうなのか。
- (事務局) そういうことを以前からやってきた経緯がある。そういうことでファシ
リテイトする能力が高いのだらうと思う。

(部会長) ちょうど時間になりましたので、これにて専門部会を閉じさせていただきます。